



平成30年3月5日

「わが村は美しくー北海道」運動 第9回コンクール募集開始！ ～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を募集します～

北海道開発局では、「わが村は美しくー北海道」運動（以下「わが村運動」という。）第9回コンクールへの応募団体を以下のとおり募集します。

北海道開発局では、北海道内の農山漁村において、地域の活性化に貢献する住民主体の活動を支援し、農山漁村の発展に寄与することを目的に「わが村運動」を推進しています。

この運動の一環として、平成14年から2年に一度のサイクルでコンクールを開催しており、この度、第9回コンクールの応募団体を募集します。

【募集期間】 平成30年3月5日（月）から平成30年6月29日（金）まで

【応募対象】 北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む活動を対象とします。

なお、コンクール応募用紙は各開発建設部で配布しております。

詳しくは、各団体が活動する地域の土地改良情報対策官までお問い合わせください。

<添付資料>

- 別紙1 : コンクール要旨
- 別紙2 : コンクール募集広告
- 別紙3 : コンクール応募要領
- 別紙4 : コンクールの流れ（予定）、応募先・お問合せ先
- 別紙5 : これまでのコンクール受賞団体（小樽ブロック）一覧

「わが村運動」の情報は、以下のホームページに掲載しています。

http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g700000emhm.html



【問合せ先】 北海道開発局 小樽開発建設部

土地改良情報対策官 田中 明男（電話 0134-23-5127）

土地改良情報対策官付主任 角本 美和（電話 0134-23-5232）



小樽開発建設部ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

平成30年 3月 5日
北海道開発局

**「わが村は美しくー北海道」運動 第9回コンクール募集開始！
～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を募集します～**

3月5日（月）から「わが村は美しくー北海道」運動 第9回コンクール
応募団体の募集を開始します。

1. 「わが村は美しくー北海道」運動の趣旨

この運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするため、地域の資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動を支援する取組であり、住民、行政、団体、有識者、企業など多くの関係者の協力を得ながら推進しています。

運動の核となるコンクールは、北海道内各地で地域の魅力と活力を高めようとする地域住民の努力と行動に光をあて、これを広く伝えてその活動を波及させていくことによって農山漁村の発展を目指すものです。

2. コンクールの概要

(1) 応募期間

平成30年3月5日（月）～平成30年6月29日（金）

(2) 応募対象

北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む次のような活動を対象とします。

●目的や内容に以下の要素のいずれかを含み、これらを活かして地域の活性化に貢献している活動

- ・「生産と生活に根ざした景観の形成」
- ・「地域で生産される農林水産物を活かした特産物づくり」
- ・「地域内交流の活発化や都市住民等地域外との交流」

(3) 表彰

2か年で表彰を行います。（1年目は優秀賞と奨励賞、2年目は大賞）

〈優秀賞〉応募していただいた団体の中から優秀な活動を選考します。

〈奨励賞〉将来性や継続性から奨励する活動を選考します。

〈大賞〉全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動を選考します。

3. これまでの開催状況

- ・これまでのコンクール参加市町村数は全道の93%にあたる166市町村。
- ・参加団体数は、複数応募を除き779団体、延べ1,111団体。
- ・受賞団体数は、延べ220団体。

参加しよう・広げよう・いいもの伝えよう

「わが村は美しくー北海道」運動 第9回コンクール

応募期間

平成30年6月29日まで



背景写真：(一社)北海道土地改良設計技術協会主催「北の農村フォトコンテスト」応募作品

わが村は 美しく

1. 目的 このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村がより「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見出し、これを広く発信し、波及させていくことによって、農山漁村の振興に寄与することを目指します。
2. 応募対象 北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む活動を対象とします。(詳しくは裏面の応募要領を御覧ください。)
3. 応募方法 応募用紙に必要事項を記入し、活動団体の所在地を管轄する各開発建設部に送付又は持参にて御応募ください。
4. 応募用紙 各開発建設部で配布しております。また、北海道開発局のホームページから入手できます。
http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html
5. 応募期間 平成30年6月29日(金)まで
6. 賞について
 - 優秀賞 応募していただいた団体の中から優秀な活動を選考します。
 - 奨励賞 将来性や継続性から奨励する活動を選考します。
 - 大賞 全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動を選考します。
7. 受賞団体の発表 「優秀賞」・「奨励賞」については平成31年1月頃、「大賞」については平成31年10月頃に発表します。



【主催】北海道開発局

【共催】北海道、NPO法人わが村は美しくー北海道ネットワーク

【後援】北海道農政事務所、北海道森林管理局、北海道経済産業局、北海道運輸局、北海道財務局、北海道市長会、北海道町村会、北海道土地改良事業団体連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道日本型直接支払推進協議会、北海道漁港漁場協会、北海道地区「道の駅」連絡会、(公財)北海道地域活動振興協会、(一社)北海道商工会議所連合会、(公社)北海道観光振興機構、(一社)北海道消費者協会、(一社)北海道土地改良設計技術協会、(公社)北海道栽培漁業振興公社、(一社)シーニックハイウェイ支援センター、オーライ!ニッポン会議、(一財)都市農山漁村交流活性化機構、(一社)日本コミュニティ放送協会北海道地区協議会、NPO法人「日本で最も美しい村」連合、JR北海道、北洋銀行、AIRDO、生活協同組合コープさっぽろ、リクルート北海道じゃらん、朝日新聞北海道支社、毎日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道新聞社、十勝毎日新聞社、日本農業新聞北海道支所、NHK札幌放送局、HBC北海道放送、S-TV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ放送、UHB北海道文化放送、TVHテレビ北海道

【第9回コンクール 応募要領】

コンクールの趣旨

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村がより「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見出し、これを広く発信し、波及させていくことによって、農山漁村の振興に寄与することを目指します。

応募対象

北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む次のような活動を対象とします。

- 目的や内容に以下の要素のいずれかを含み、これらを活かして地域の活性化に貢献している活動。
 - ・「生産と生活に根ざした景観の形成（景観）」
 - ・「地域で生産される農林水産物を活かした特産物づくり（地域特産物）」
 - ・「地域内交流の活性化や都市住民等地域外との交流（人の交流）」

「活動の参考例」

- 地域の人々が協力し合って、農道の草刈りや植栽、農業用排水路の草刈りや土砂上げなどの共同作業に取り組み、農村の景観を守っている。
- 地域をあげて景観緑肥による土づくりに取り組むことによって、安全・安心な農作物を生産し、特産品化に繋げている。
- 間伐材を利用した製品の製造、販売を行いながら、地域の森林資源を守り地元の雇用も創出している。
- 地域の景観を形成している地場産の農林水産物を主材料として、生産者と商工会等が共同で新たな商品開発に取り組み、地元の農山漁村景観や農林水産物の良さを発信している。
- 生産活動によって作られる農村景観と農産物を結びつけて、消費者や子供達との体験型の交流活動を行い、農業と農村の良さを伝えている。
- 学校の活動で生徒自ら生産した農畜産物を用いて、食品の加工製造に取り組み、地域の商工会などと連携し、まちの活性化に影響を与えている。
- 地元の水産資源を使い、生産者の意向を反映した加工品の製造・販売を行うほか漁業体験、食育活動を通じて地域の振興に取り組んでいる。

応募資格

- ①住民が主体となって活動している団体であること。
団体とは、任意団体のほか、NPO法人、協同組合、商工会・商工会議所、学校等を含み、企業単独、個人単独の活動は除きます。ただし、企業、個人単独であっても、その活動が地域の他の団体と連携した活動であって、地域との繋がりが明確に認められる場合は対象とします。
- ②複数のグループで構成している場合も含まれます。
- ③活動範囲が複数の市町村にまたがる場合も含まれます。

賞について

- 優秀賞** 応募していただいた団体の中から優秀な活動を選考します。
- 奨励賞** 将来性や継続性から奨励する活動を選考します。
- 大賞** 全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動を選考します。

審査基準

次の審査項目に基づき「景観」、「地域特産物」、「人の交流」の3つの要素との関わりを含め、総合的に評価します。

- ①農林水産業の生産活動との関係性
- ②活動に対する地域住民の主体的関与の度合い
- ③継続性・持続性
- ④地域住民の理解の度合い
- ⑤個性・独創性
- ⑥地域活性化への効果

審査方法

- 優秀賞・奨励賞については、地域の有識者等で構成する「ブロック^(※)審査委員会」により書類と現地調査に基づき審査・選考します。
- 大賞については、学識経験者等で構成する「大賞審査委員会」により審査・選考します。

(※)「ブロック」・・・各開発建設部の区域を単位とします。

応募方法及び応募先

応募用紙に必要な事項を記入し、活動団体の所在地を管轄する各開発建設部に送付又は持参にて御応募ください。

応募用紙は各開発建設部で配布しております。また、北海道開発局のホームページからも入手できます。

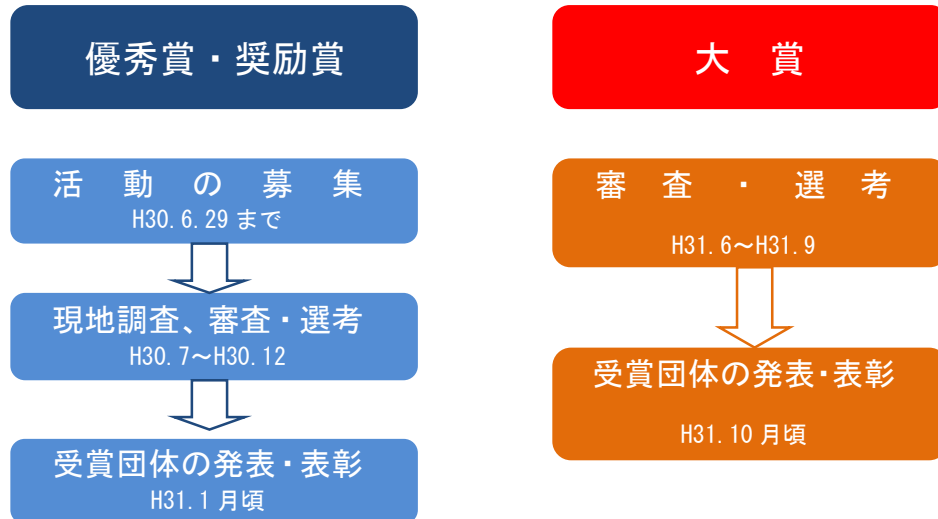
詳しくは北海道開発局のホームページまたは各開発建設部にお問合せください。

わが村 「わが村」で検索できます。

留意事項

- 応募用紙及び添付写真等については返却できませんのであらかじめ御了承ください。
- 応募用紙の記載事項・添付写真等については、本運動の幅広いPRのための印刷物、ホームページ等への掲載に使用することを予定していますので、あらかじめ御了承願います。
- 現地調査の日程については事前に連絡いたしますので、御協力をよろしくお願い致します。
- 審査に当たり応募資料に虚偽又は受賞団体としてふさわしくない行為があったと認められた場合には、表彰を取り消すことがあります。

第9回コンクールの流れ（予定）



【応募先・お問合せ先】

応募に際して御不明な点は、活動団体の所在地を管轄する開発建設部の窓口までお問合せください。

| 開発建設部 | 住 所 | TEL・FAX |
|---------|--|--------------------------------------|
| 札幌開発建設部 | 〒060-8506 札幌市中央区北2条西19丁目 札幌開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 011-611-0274 FAX 011-611-4232 |
| 函館開発建設部 | 〒040-8501 函館市大川町1番27号 函館開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0138-42-7656 FAX 0138-41-1141 |
| 小樽開発建設部 | 〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15番5号 小樽開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0134-23-5127 FAX 0134-23-5293 |
| 旭川開発建設部 | 〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3番15号 旭川開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0166-32-3449 FAX 0166-32-0958 |
| 室蘭開発建設部 | 〒051-8524 室蘭市入江町1番地14 室蘭開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0143-25-7049 FAX 0143-23-5664 |
| 釧路開発建設部 | 〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地 釧路開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0154-24-7419 FAX 0154-24-6843 |
| 帯広開発建設部 | 〒080-8585 帯広市西4条南8丁目 帯広開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0155-24-3192 FAX 0155-24-0743 |
| 網走開発建設部 | 〒093-8544 網走市新町2丁目6番1号 網走開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0152-44-6898 FAX 0152-44-2871 |
| 留萌開発建設部 | 〒077-8501 留萌市寿町1丁目68番地 留萌開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0164-42-2381 FAX 0164-43-1779 |
| 稚内開発建設部 | 〒097-8527 稚内市末広5丁目6番1号 稚内開発建設部 土地改良情報対策官 | TEL 0162-33-1186 FAX 0162-33-1046 |

寿都地域マリンビジョン協議会 (寿都町)

『目指せ！寿都・後志ツーリズム交流文化圏の形成』

修学旅行生や観光客を対象にした漁船乗船体験や地引き網体験を通して、観光型漁村の形成を目指しています。また、藻場の保全・再生対策として、「海の森づくり」に取り組んでいます。



第8回特別賞

第7回奨励賞

北海道余市紅志高等学校 農業クラブ (余市町)

町の基幹産業である「果樹栽培」をはじめ、「野菜栽培」、町内を彩る「草花植栽」、農産物の加工を行う「食品製造」の4部門が連携した活動を通じて学びを深め、地域活性化や地域産業の担い手を目指して活動しています。



第8回奨励賞

ニセコ町農業青年会 (ニセコ町)

離農跡地等を利用して農作物を栽培し、ひまわりを緑肥として作付しています。また、収穫体験を行う活動を通じて美しい農村景観を維持し、新鮮な農産物の提供をしています。平成25年からサツマイモの試験栽培を始め、平成27年にはサツマイモの芋焼酎を醸造し道の駅等で発売しています。



第8回奨励賞

北海道倶知安農業高等学校 (倶知安町)

倶知安町の特産品であるじゃがいも規格外を使って商品開発を行っています。平成16年、じゃがいもに酵素を加え、ペースト状にした「ポテトペースト」を地元企業と共同で開発し特許を取得、「ぼてぶりん」などを商品化して地元菓子店が販売しています。



第7回特別賞

美国・美しい海づくり協議会 (積丹町)

磯焼けの対策として、海藻食害ウニの除去作業などの藻場保全活動を地元漁業者とレジャーダイバーが実施し、藻場の回復に向けた取組を行っています。森・川・海に着目した環境保全活動(植樹活動)など、観光業との連携や後継世代に向けた地域振興に取り組んでいます。

第7回優秀賞
第6回奨励賞

「わが村は美しく -北海道」運動 コンクール受賞団体 ~小樽ブロック~

米ー1グランプリinらんこし 実行委員会 (蘭越町)

「全国の米農家を対象とした食味コンテストを実施し、競争意識による生産技術の向上と消費者への美味いお米の情報発信」

コンテストの審査員は食に精通する特別審査員と公募による一般審査員で構成され、大会後には交流会も行い、町民と地域外の交流ができています。



第6回優秀賞

STAFF (後志地域)

「仲間が集まれば何でもできる！」と後志管内の若手農業者が仲間づくりで絆を深める。青年同士の交流会の開催などの活動を目的に、後志管内の10の4Hクラブと青年団体が、Shiribeshi(後志)Total(全体)Agriculture(農業)Future(未来)Farmers(農業者)の頭文字をとり、STAFFの名称で設立された団体です。



第6回奨励賞

赤井川村農業 元気グループ Together (赤井川村)

赤井川村は、農業の営みとあふれる自然が四季折々の農村景観を形成しています。しかし、高齢化や担い手不足などにより遊休地も見られ、農業後継者として帰郷した若手青年が「大好きなふるさとのために何か出来ることはないか」とグループを結成して活動を開始しました。

第5回景観部門(銅賞)
人の交流部門(銀賞)

まっかりまんま (真狩村農産物加工研究会) (真狩村)

真狩村のゆり根は日本一の生産量を誇る特産品で、全国シェア約3割を占めています。「ゆり根を無駄にしたいくない、規格外品であっても味は変わらない」との思いから、ゆり根の普及拡大を目指し、加工や料理法の研究に取り組み「ゆりねのスイートコロック」が誕生しました。



第5回地域特産物部門(特別賞)

くっちゃんJAZZフェスティバル 実行委員会 (倶知安町)

1990年12月に『ウインター・ジャズフェスティバル』を開催し、第2回からまちづくりとしての実行委員会が組織され、幅広い交流を作りだして、夏のイベントとなりました。夏の2日間に野外特設ステージでジャズフェスティバルを開催することをメインに活動を行っています。



第3回人の交流部門(特別賞)

ニセコ21世紀まちづくり 実行委員会 (ニセコ町)

2001年、まちづくりへの意見を実現するため実行委員会が結成されました。「フラワーデザイン部会」等5部会があり、花や緑にあふれた美しいまちづくりへの取り組み、ガーデンツアーの実施、農産物の朝市、商店街独自のオープンカフェ等、農業・商業・観光の新しい交流と地域産業の再生を図る活動をしています。



第2回景観部門(特別賞)

黒松内ぶなの森自然学校 運営協議会 (黒松内町)

1995年に「ブナ里景観ガイドプラン」1996年に「ふるさと景観条例」を制定し、地域の景観を守り育てています。まちづくりの取組団体が連携し、活動を展開しています。1999年、一層の景観形成と自然の保全活用をめざし、「ぶなの森自然学校」が開校。同時に、町内外の有識者により同運営協議会が設立されました。



第1回景観部門(銀賞)

寿がき養殖部会 (寿都町)

冬が旬であるカキですが、夏(4~7月)に出荷できるマガキの養殖に成功しました。1998年から本格的に販売を開始。マガキは、寿都町の「寿」を取り「寿がき」と名づけました。市場が品薄状態の時に出荷できるため、予想をはるかに上回る売れ行きを記録。購入者のアフターケアにも力を注ぎました。



第1回地域特産物部門(銅賞)